

第2回「稲むらの火講座」のお知らせ

これまでにも、概略お知らせしていましたが、第2回「稲むらの火講座」講演の詳細が決定いたしました。大勢のご参加をお待ちしています。

- 1、日程 平成27年8月22日(土)午後1時
- 2、場所 稲むらの火の館 3階
- 3、演題 「濱口梧陵と福沢諭吉の
コラボレーション」
- 4、講師 曾野 洋先生
四天王寺大学教育学部長・教授
慶應義塾大学客員研究員



曾野先生は和歌山市出身で「和歌山県教育史」の編纂委員をつとめられました。現在は、毎日新聞に「範は紀州史にあり」を連載中で、宝山良雄校長の耐久改革を始め、耐久社に関することなどを書かれています。

参加ご希望の方は「稲むらの火の館」までお申し込みください。(先着100名)

【お問い合わせ先】： 稲むらの火の館

電話 64-1760

FAX 64-1761

第1回「稲むらの火講座」のご報告

第1回「稲むらの火講座」は、島根県立大学短期大学部教授、松江市小泉八雲記念館顧問の小泉凡先生にお越しいただき、「オープン・マインドで生きる-濱口梧陵と小泉八雲をめぐって」という演題でご講演いただきました。



「稲むらの火」は、安政津波に際し、機転をきかせて人々を救った濱口梧陵の行動を小説にした、小泉八雲の「A living god(生ける神)」を原作に翻訳され、小学生向けに書き改められたもので、戦前の国定教科書に掲載されました。濱口梧陵の偉業が小泉八雲の著書を通して世に広められ、津波防災の最適教材として今日も活用されています。

今回、その八雲のひ孫さんである、小泉凡先生にお越しいただき、八雲について詳しくお話していただきました。

講演会では凡先生から、梧陵さんの防災に取り組む精神を世界に発信していこうとの提言もあり、100名に及ぶ聴講者の方々も聞き入っておられました。また、積極的に先生に質問されたり、講演終了後に控え室へご挨拶に伺う方もおられました。

なお、上記の新聞記事は産経新聞の記者さんが取材され、翌日に掲載されたものです。

多目的室の展示コーナー

多目的室では、津木地区寄合会の村おこしの実施発表が行われました。



津木に残る自然について、ホタルや野鳥、巨木など様々なものがあげられ、今よりもっと自然保護に力を入れていこうという思いが強調されています。

来館者の皆様も、ホタルやツギー谷のお花畑についての話題に花が咲いていました。



【お客様の声】

- ① ツギー谷のお花畑というんですね。とてもかわいい名前です。展示しているパネルのガリ版(チラシ)はないのですか。持って帰ってゆっくり読みたかったです。
- ② 千葉県銚子市の隣のまち、あさひ市から来ました。ヤマサ醤油の社長さんが濱口さんだと聞いてましたので、こちらに寄りました。
- ③ 北海道から来ました。昨日も来たのですが時間外で閉館していて、今日はリベンジです。とても勉強になりました。北海道も奥尻などで津波の被害があり、身近に感じます。
- ④ 新潟から来ました。せっかくですので、ゆっくり見学させてもらいます。

地震・津波関係図書をいただきました

東京大学地震研究所の都司嘉宣という先生をご存じでしょうか。地震研究の専門家です。都司先生から、先日小包が届きました。中には、先生が著した書籍がたくさん入っており、びっくりしました。本当にありがたいですね。「津波ライブラリー」にございますので、参考書としてぜひご覧ください。

【いただいた本のリストです】

- 1、地震のメカニズム
- 2、千年に一度の大地震・大津波に備える
- 3、歴史地震の話
- 4、千年震災
- 5、震災復興の論点
- 6、知ってそなえよう地震と津波



また、慶應義塾大学 井奥成彦教授が、ヤマサ醤油についての研究論文集を送っていただきました。内容はかなり難しいですが、ヤマサに保存されている大福帳を解読したもののようで、非常に貴重な資料です。興味のある方は係までお問い合わせください。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター
〒643-0071 住所 広川町広671
Tel : 0737-64-1760 / FAX : 0737-64-1761
<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>
*開館時間：午前10時～午後5時（受付終了4時）
*休館日：月曜日・火曜日（祝日開館）
年未年始（12/29～1/4）
*記念館だけの入場は無料です。